

◆特色と構成

- ① 公立高校入試対策用の基本的なテキストです。
- ② 入試問題の傾向をふまえて、読解問題を中心に入試直前の学習が効果的にできるよう構成になっています。
- ③ 「古文」については、基本の確認から読解練習まで効率よく学習できるようにしています。
- ④ 「漢字と語句」と「文法の基本」、それに「短歌と俳句」では、入試によく出る知識事項をチェックします。
- ⑤ 最後に「実力判定問題」を付けましたので、仕上げの模擬テストとして活用してください。

第1講座	小説の読解(1).....	2
第2講座	小説の読解(2).....	6
第3講座	論説・説明文の読解(1).....	10
第4講座	論説・説明文の読解(2).....	14
第5講座	古文の基礎知識と読解.....	18
第6講座	漢字と語句.....	22
第7講座	文法の基本、短歌と俳句.....	25
第8講座	実力判定問題.....	27

特別講座 (1)

作文の基本

★毎年、多くの県で必ず出題され、配点は全体の約20%を占める作文
公立高校入試では、多くの県で作文が毎年必ず出題されています。与えられた題にしたがって、自分の考えを指定された字数でまとめることが要求されています。配点も高く、全体の約20%を占めているので、おろそかにはできません。作文に苦手意識を持っている人は、今のうちに克服し、自信を持って入試に臨めるようにしておきましょう。

ポイント① 原稿用紙の使い方

- 原稿用紙の使い方には、いくつかの約束ごとがあります。それを守らないとやはり減点の対象となります。次の基本事項を確認しておきましょう。
- ① 書き始めと行を改める場合は、一字分あげる。
 - ② 読点(、)と句点(。)は、一字分を使って、ますの中の右上のところに書く。
 - ③ 「 」、「 」、「 」() などのかつこや、疑問符(?)、感嘆符(!)なども一字分を使う。
 - ④ 読点や句点が一番上のますにくるときは、その前の行の終わりのますの文字と一緒にまずにおさまるように書く。

1 次の文章をあとの原稿用紙に正しく書き写しなさい。

思い出と言われて思い出すのは、失敗をしてみんなに笑われたことです。「思い出はたくさんあったほうが良い」と先生がおっしゃっていましたが、私もその通りだと思います。失敗したことも今ではなつかしい一つの思い出なのです。

ポイント② 書くことに慣れる

長い文章を書く前に、短い文を書く練習を積んで、文章を書くことに慣れておきましょう。

例 「たとえ……………」おそらく……………」の形の文を作りなさい。

右の例題の「……………」に適当な表現を入れて文を作るとしたら、どのような文ができますか。「たとえ……………」は仮定表現、「おそらく……………」はその結果の予想ですから、書く文の内容も限られてきます。たとえば次のような文が考えられます。

- たとえ彼がいなくても、おそらく私たちのチームが勝つだろう。
 - たとえ雨が降っても、おそらく遠足は強行されることだろう。
 - たとえこの先どんな映画がつけられようとも、おそらくこれほど恐ろしい映画がつけられることはないでしょう。
- など、いろいろつくることができます。みなさんもういろいろ考えてみましょう。